

求職者の動向・意識調査 2021 分析レポート

女性の仕事探しの実態と課題

＜仕事探し当時の就業状況により、次の仕事決定に差＞

就業者は雇用形態や年齢にかかわらず約5割が決定

専業主婦の決定は3割未満

株式会社リクルートの調査研究機関「ジョブズリサーチセンター」では、求職者の動向や意識を隔年で調査しています。本レポートは、2021年に実施した「求職者の動向・意識調査 2021」より、特にアルバイト・パートと未就業（専業主婦、無職・定年退職）の女性に注目してまとめました。労働力人口の減少を背景とした人材不足解消のためにも、女性活躍推進のためにも、女性の就業促進は社会的課題となっています。そこで、仕事探しをしたにもかかわらず働いていない女性はなぜ働いていないのかを調査データを通して検討し、どのような対策が効果的か考察します。

【主な調査結果】

1 仕事の決定状況

- 仕事探し当時に就業していなかった人は、就業中だった人に比べて仕事が決まりにくい。専業主婦、無職・定年退職では年齢が上がると仕事が決まる割合が低下し、50代以上では2～3割程度になるが、アルバイト・パートでは年齢が上がっても約半数の人は仕事が決まっており、仕事の決定状況には、現在の就業状況と年齢が影響している可能性がある。（p.2～4）
- 仕事探し時に困ったことは、ほとんどの項目でアルバイト・パートよりも専業主婦、無職・定年退職の方が割合が高い。専業主婦は「育児や介護と両立できる仕事に限られる」(30.4%)、無職・定年退職は「自分にどのような仕事が合うのかわからない」(37.3%)との回答が多く、それぞれに合うサポートが必要だと考えられる。（p.6）

2 仕事探しの実態

- 仕事を探した時に絶対条件だった項目を見ると、上位に挙げた勤務時間・勤務地と仕事内容に関するほとんどの項目で、アルバイト・パートよりも専業主婦、無職・定年退職の方が割合が高い。給与などはアルバイト・パートよりも割合が低くなっているが、希望条件の優先順位付けが必要な場合もあると考えられる。（p.8）
- 専業主婦と無職・定年退職の希望条件は、職種については事務希望が多い。勤務日数・時間については、3日以下、6時間未満など少ない日数・時間希望が多い。求人企業でも少ない日数・時間で勤務を可能にするなどの対応が望まれる。（p.10～12）

調査概要	求職者の動向・意識調査 2021
調査目的	<ul style="list-style-type: none"> ・労働市場における求職者の就業実態および意識を明らかにする ・未就業者の求職実態および意識を明らかにする
調査手法	インターネット調査
対象者条件	<ul style="list-style-type: none"> ・全国 15～69歳の男女 ・最近1年間に仕事探し経験あり（新卒以外） ・現在および仕事探し当時の職業が アルバイト・パート、正社員、契約社員、派遣社員、専業主婦/主夫、無職・定年退職 のいずれか
調査期間	2021年10月11日（月）～10月15日（金）
有効回答数	14,991人（ウエイトバック集計） ※本レポートでは女性9,018人を分析対象とした

※ ウエイトバック集計を行ったため、数表内の回答者数とその内訳の合計が合わないことなどがある。

※ グラフと数表は、集計結果の小数点第2位を四捨五入して表示している。

関連ページ

- 求職者の動向・意識調査 2021 基本報告書

https://jbrc.recruit.co.jp/data/data20211222_1998.html

1 仕事の決定状況

1-1 新たな仕事の決定状況

働けていない女性の理由を考えるにあたり、まずは、新たな仕事の決定状況を見ておきます。

本調査は最近1年間に仕事探し経験のある人（新卒以外）を対象としています。仕事探し当時に専業主婦と無職・定年退職だった人は、就業中の人に比べて「仕事が決まったので（仕事探しを）終了した」の割合が低く、「仕事は決まらなかったが終了した」の割合が高くなっています。特に専業主婦は「仕事は決まらなかったが終了した」が約3割となっており、仕事が決まりにくいと考えられます。

本レポートでは、アルバイト・パート、専業主婦、無職・定年退職の比較を中心に、その要因を検討します。

		n=	終了 仕事 しが 決ま った の で	終了 仕事 は 決 ま ら な か っ た が	継 続 中	(%)
女性・計		9,018	45.4	15.4	39.2	
（仕事 探し 当時 職業 別）	正社員	2,069	47.3	12.7	40.0	
	契約社員	386	52.2	13.8	34.0	
	派遣社員	569	57.2	6.7	36.1	
	アルバイト・パート	3,387	53.0	11.2	35.9	
	専業主婦	1,745	26.9	29.1	44.0	
無職・定年退職		863	37.6	17.3	45.1	

Q.最近1年間（2020年10月～2021年9月）に行った新卒以外での仕事探しはすでに終了していますか。（単一回答）【対象者：全員】

1 仕事の決定状況

1-2 年齢

仕事探しの実態を見る前に、回答者がどのような人なのかを見ておきます。アルバイト・パート、専業主婦、無職・定年退職では、職業によって年齢の分布が異なるため、比較するにあたって年齢の影響には留意が必要です。

アルバイト・パートは「40～49歳」の割合が比較的高くなっています。専業主婦は「30～39歳」の割合が比較的高く「20～29歳」が低くなっています。無職・定年退職では「20～29歳」の割合が最も高くなっています。

		n=	1 5 5 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	平均値 (歳)	(%)
女性・計		9,018	0.3	18.7	23.3	27.4	20.1	10.1	42.5	
(仕事探 し 当 時 職 業 別)	正社員	2,069	0.3	32.7	29.7	22.4	13.1	1.8	36.8	
	契約社員	386	0.0	18.8	18.1	28.1	23.7	11.4	43.5	
	派遣社員	569	0.3	19.5	19.1	34.2	21.5	5.4	42.3	
	アルバイト・パート	3,387	0.4	13.6	20.5	30.7	23.1	11.8	44.3	
	専業主婦	1,745	0.0	9.0	26.9	27.7	21.6	14.7	45.1	
	無職・定年退職	863	0.7	24.8	16.2	21.7	19.9	16.7	43.3	

Q.年齢（単一回答）【対象者：全員】

1 仕事の決定状況

1-3 年代別・新たな仕事の決定状況

新たな仕事の決定状況を年代別に見ると、専業主婦・無職・定年退職では年齢が上がると「仕事が決まったので終了した」の割合が低下し、50代以上では2～3割程度になっています。一方で、アルバイト・パートでは年齢が上がっても約半数の人は仕事が決まっています。また、正社員でも年齢が上がっても4割程度は仕事が決まっており、主婦や無職・定年退職ほどは下がりません。

仕事をしておらず年齢が高いと、仕事探しの方法がわからない、新しい環境に入ることを躊躇してしまう、仕事を覚えて職場になじむことができるか不安視され採用されにくくなる、といった理由で仕事を探しても決まりにくくなると推測されます。

				終ま仕 了つ事 した たの決 で	がら仕 終な事 了か はしつ決 たたま	継 続 中
女性・職業別（仕事探し当時）	正社員	15-19歳	n= 7	72.1	0.0	27.9
		20-29歳	676	51.3	14.5	34.2
		30-39歳	615	47.4	12.7	39.9
		40-49歳	463	44.6	10.8	44.6
		50-59歳	270	41.7	10.0	48.2
		60-69歳	38	43.8	23.0	33.2
	契約社員	15-19歳	0	0.0	0.0	0.0
		20-29歳	72	58.3	11.9	29.7
		30-39歳	70	67.3	7.2	25.5
		40-49歳	108	42.8	12.7	44.5
		50-59歳	91	47.2	16.5	36.3
		60-69歳	44	51.9	24.6	23.5
	派遣社員	15-19歳	2	50.0	0.0	50.0
		20-29歳	111	64.3	8.5	27.2
		30-39歳	109	53.9	5.4	40.7
		40-49歳	194	57.0	6.1	36.9
		50-59歳	122	54.8	6.4	38.8
		60-69歳	31	54.5	10.3	35.2
	アルバイト・パート	15-19歳	13	21.2	36.1	42.7
		20-29歳	460	59.0	10.0	31.0
		30-39歳	694	53.7	11.7	34.6
		40-49歳	1038	52.2	9.1	38.7
		50-59歳	783	48.8	10.9	40.4
		60-69歳	398	56.1	16.5	27.4
	専業主婦	15-19歳	0	0.0	0.0	0.0
		20-29歳	157	41.6	25.7	32.7
		30-39歳	470	32.9	29.4	37.6
		40-49歳	484	26.8	24.2	49.0
50-59歳		377	19.3	25.2	55.5	
60-69歳		257	18.2	45.4	36.4	
無職・定年退職	15-19歳	6	16.2	16.9	66.9	
	20-29歳	214	47.2	12.8	39.9	
	30-39歳	140	44.0	16.9	39.1	
	40-49歳	187	39.4	12.3	48.3	
	50-59歳	172	28.1	17.3	54.7	
	60-69歳	144	26.7	31.1	42.1	

Q.最近1年間（2020年10月～2021年9月）に行った新卒以外での仕事探しはすでに終了していますか。（単一回答）【対象者：全員】

1 仕事の決定状況

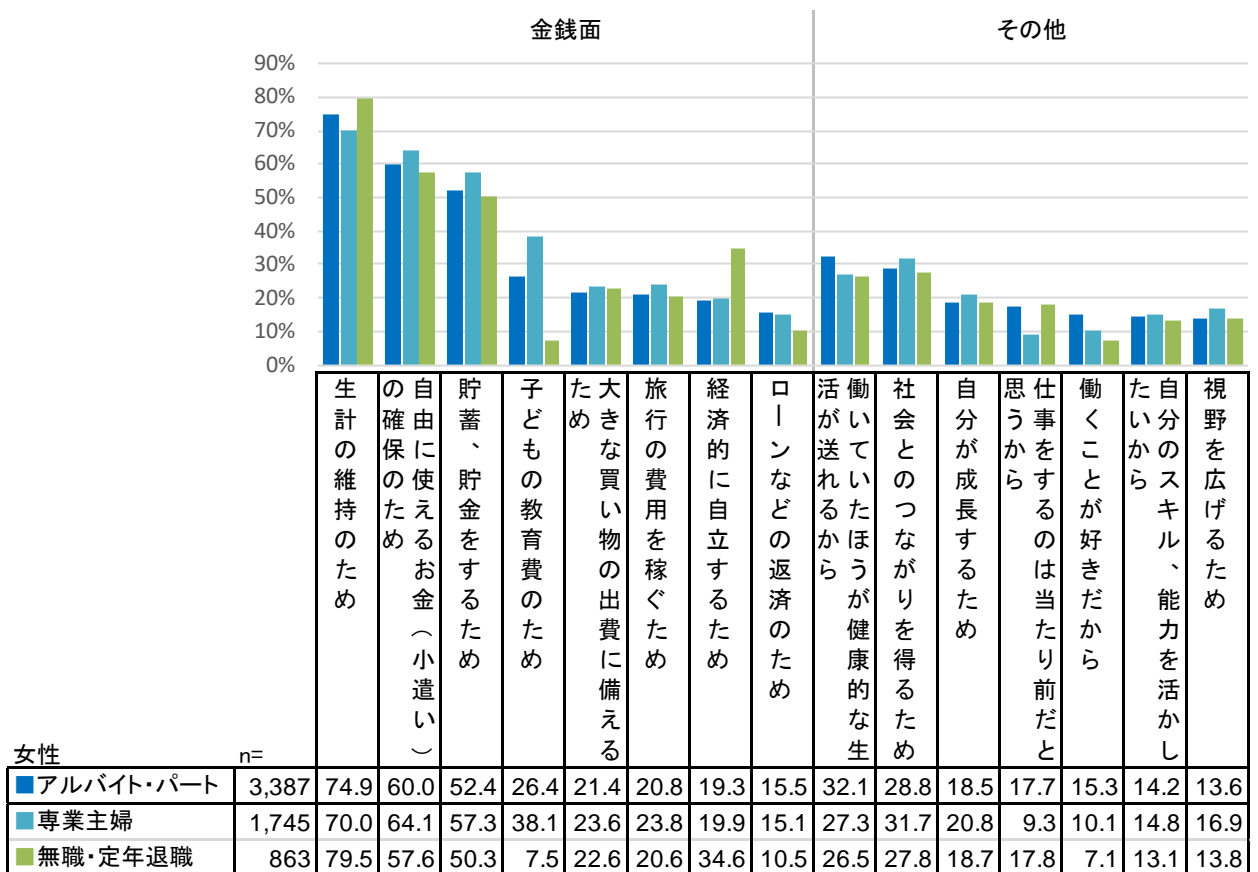
1-4 仕事の目的

仕事をする目的を見ると、アルバイト・パート、専業主婦、無職・定年退職ともに「生計の維持のため」が最も割合が高く（※）、「自由に使えるお金（小遣い）の確保のため」「貯蓄、貯金をするため」が続きます。

専業主婦は「子どもの教育費のため」が第4位で、育児が一段落して将来の教育費などのことを考えて仕事を探した人が多いと考えられます。また、無職・定年退職では「経済的に自立するため」が多く、親元からの自立や年金受給に頼らない経済力の確保などを考えている人が多いと考えられます。

アルバイト・パートは上記の3項目に次いで「働いていたほうが健康的な生活が送れるから」「社会とのつながりを得るため」の割合が高く、実際に働いてそのような効果を感じているものと推測されます。

（※ただし、女性正社員や男性に比べると「生計の維持のため」の割合は低くなっています。参照：基本報告書 p.11 https://jbrc.recruit.co.jp/data/data20211222_1998.html）



※アルバイト・パートの上位15項目のみ掲載

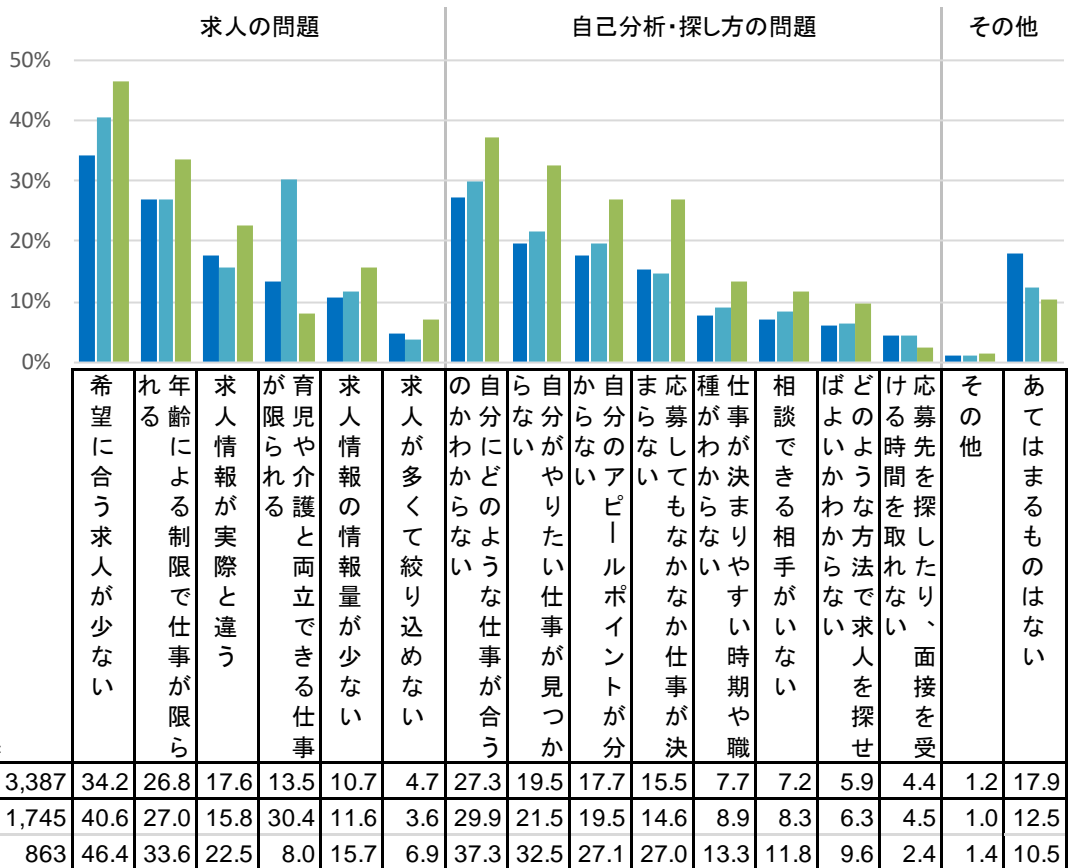
Q.あなたにとって仕事をする目的は何ですか。（複数回答）【対象者：全員】

1 仕事の決定状況

1-5 仕事を探した時の困ったこと

仕事を探した時の困ったことについて見ると、ほとんどの項目でアルバイト・パートよりも専業主婦、無職・定年退職の割合が高くなっています。

特に無職・定年退職の人は割合が高く、「希望に合う求人が少ない」「自分にどのような仕事が合うのかわからない」「自分がやりたい仕事が見つからない」「応募してもなかなか仕事が決まらない」がアルバイト・パートより10ポイント以上高くなっています。専業主婦は「希望に合う求人が少ない」「育児や介護と両立できる仕事に限られる」の割合が比較的高いといえるでしょう。仕事探しの悩みは状況によって異なるため、それぞれに合ったサポートが必要だと考えられます。



Q.仕事探しをしていた時に困ったことはありましたか。(複数回答)【対象者：全員】

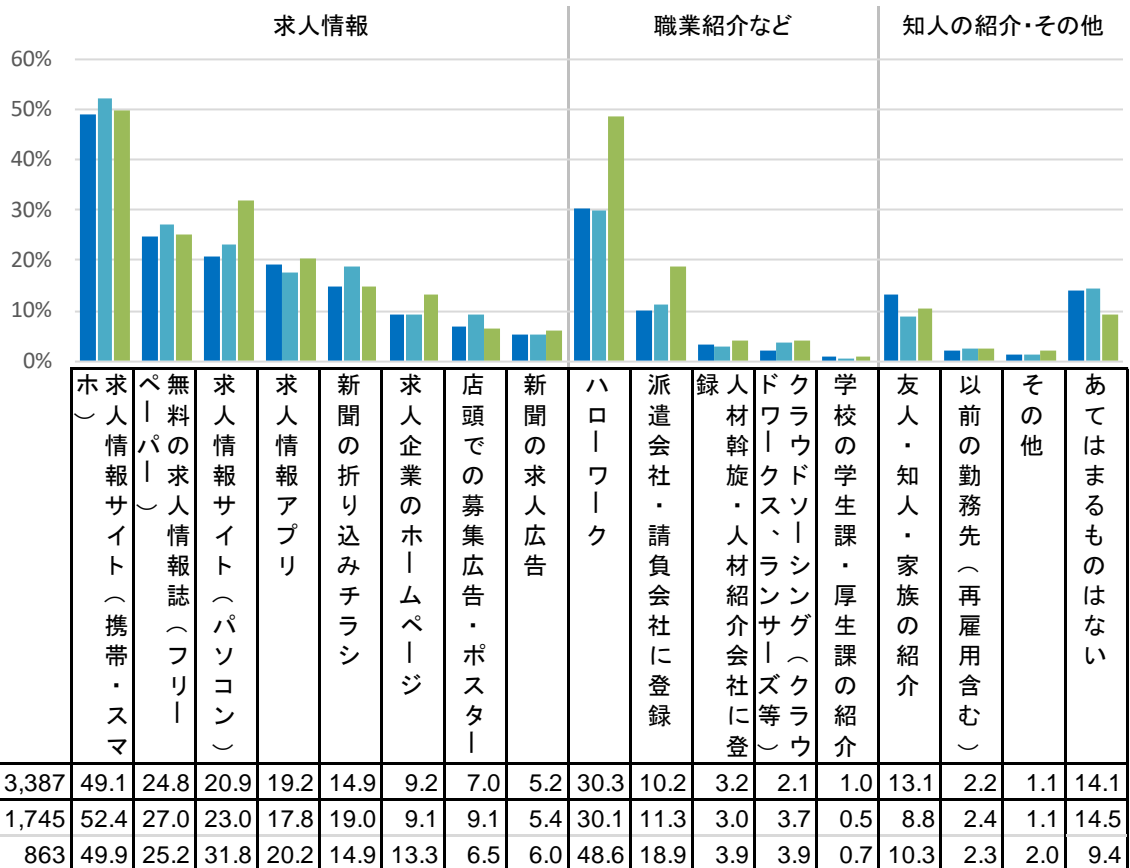
2 仕事探しの実態

2-1 利用した情報源

ここからは、仕事探しの実態について見ていきます。

いずれの属性でも、利用した情報源で最も多いのは「求人情報サイト（携帯・スマホ）」となっています。次いで「ハローワーク」「無料の求人情報誌（フリーペーパー）」が多く、専業主婦もアルバイト・パートに比べて割合が大幅に低いものはないため、情報源が少ないわけではないようです。ただし、「友人・知人・家族の紹介」はアルバイト・パートでやや割合が高くなっています。

無職・定年退職では「ハローワーク」「求人情報サイト（パソコン）」「派遣会社・請負会社に登録」「求人企業のホームページ」が多く、正社員等を希望する人が多いためだと考えられます。（p.9参照）



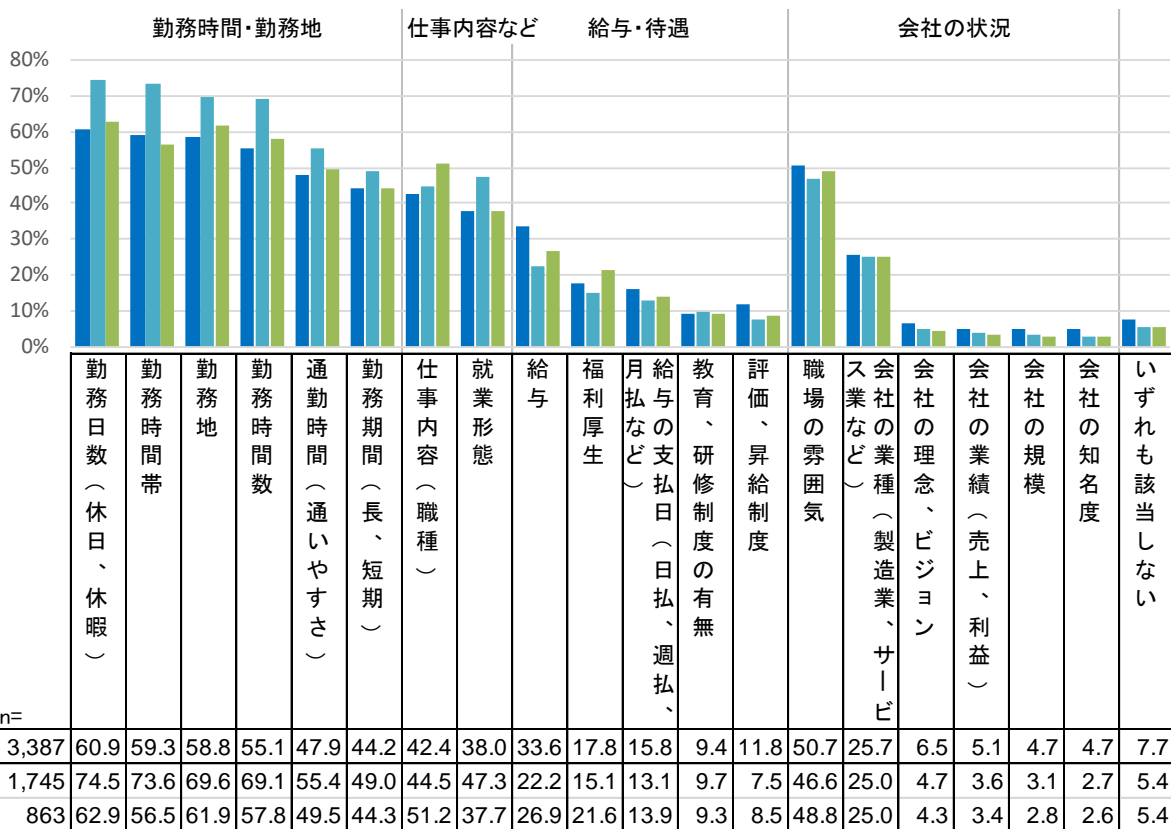
Q.最近1年間に仕事を探すときに、どのような情報源を利用しましたか。（複数回答）【対象者：全員】

2 仕事探しの実態

2-2 仕事を探した時の重視点（絶対条件）

仕事を探した時に絶対条件だった項目を見ると、上位に挙げた勤務時間・勤務地と仕事内容に関するほとんどの項目で、アルバイト・パートよりも専業主婦、無職・定年退職の方が割合が高くなっています。特に専業主婦は、勤務日数や勤務時間に関わる項目を絶対条件としている割合が高くなっています。給与などはアルバイト・パートよりも割合が低くなっていますが、希望に合う仕事を見つけるためには条件の優先順位付けが必要な場合もあると考えられます。

また、職場の雰囲気も約5割と、多くの人が絶対条件としています。



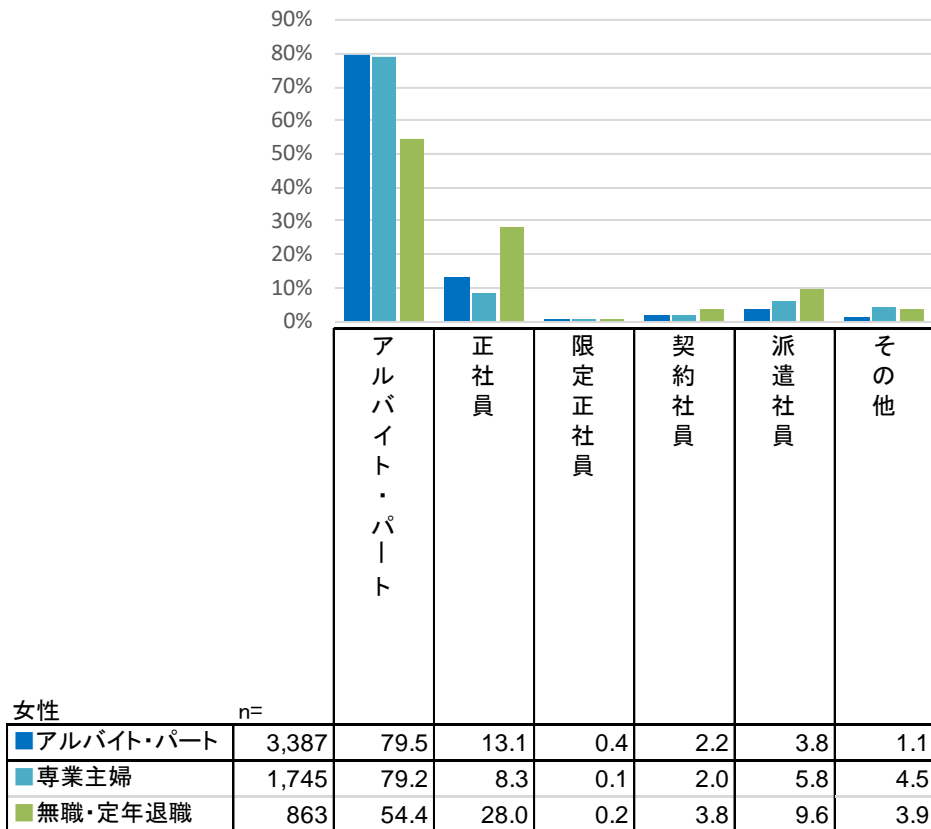
Q.仕事を探していたとき、下記の項目について、どのくらい重視していましたか。（単一回答「絶対条件だった」「他の条件がよければ我慢した」「もともと関心なかった」のうち、「絶対条件だった」を選択した人の割合）【対象者：全員】

2 仕事探しの実態

2-3 最も探した仕事の就業形態

続いて、仕事探しで具体的にどのような条件を希望していたかを見ていきます。

就業形態については、アルバイト・パートと専業主婦は約8割がアルバイト・パートを希望しており、正社員を希望する人は1割前後となっています。家事や育児・介護との両立のために時間の制約があり、アルバイト・パートを希望する人が多いものと推測されます。一方で、無職・定年退職では正社員を希望している人も3割弱となっています。

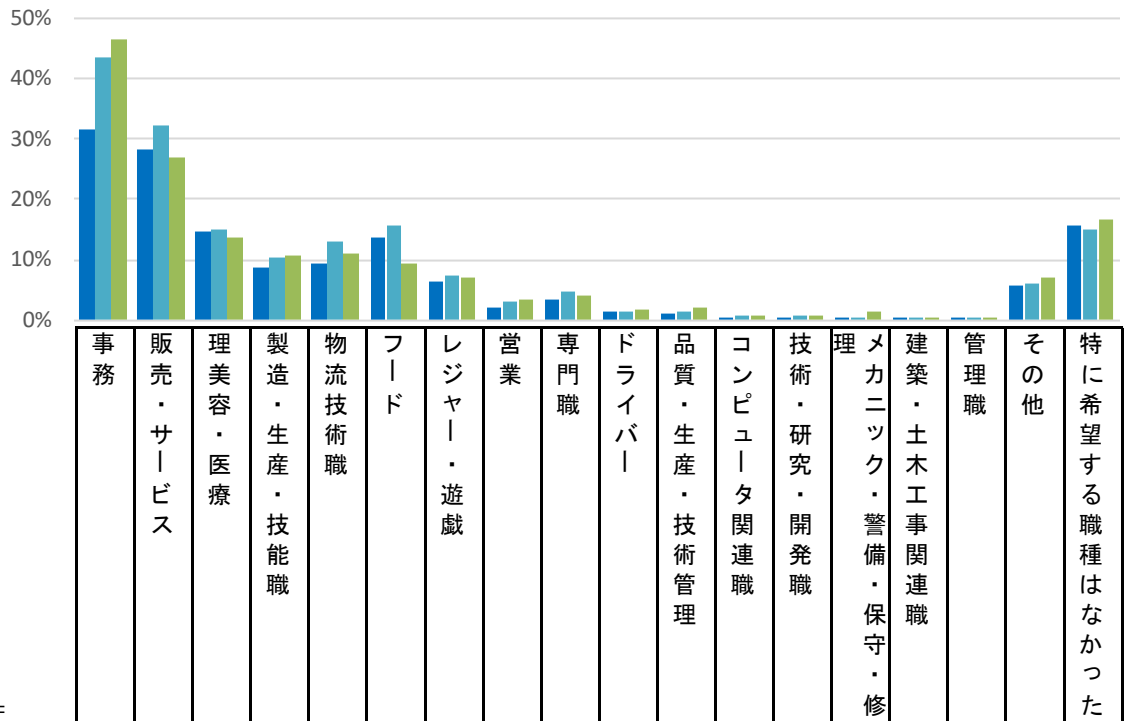


Q.あなたが探していた働き方（就業形態）をお答えください。／その中で最も探していた働き方（就業形態）（単一回答）【対象者：全員】

2 仕事探しの実態

2-4 探した仕事の職種（大分類）

職種については、専業主婦と無職・定年退職の人では、アルバイト・パートよりも、事務を希望する割合が高くなっています。事務は希望者が多く、また販売・サービスなどに比べるとアルバイト・パートでの求人が限られるため、他の職種も検討が必要な場合もあるでしょう。



女性

n=

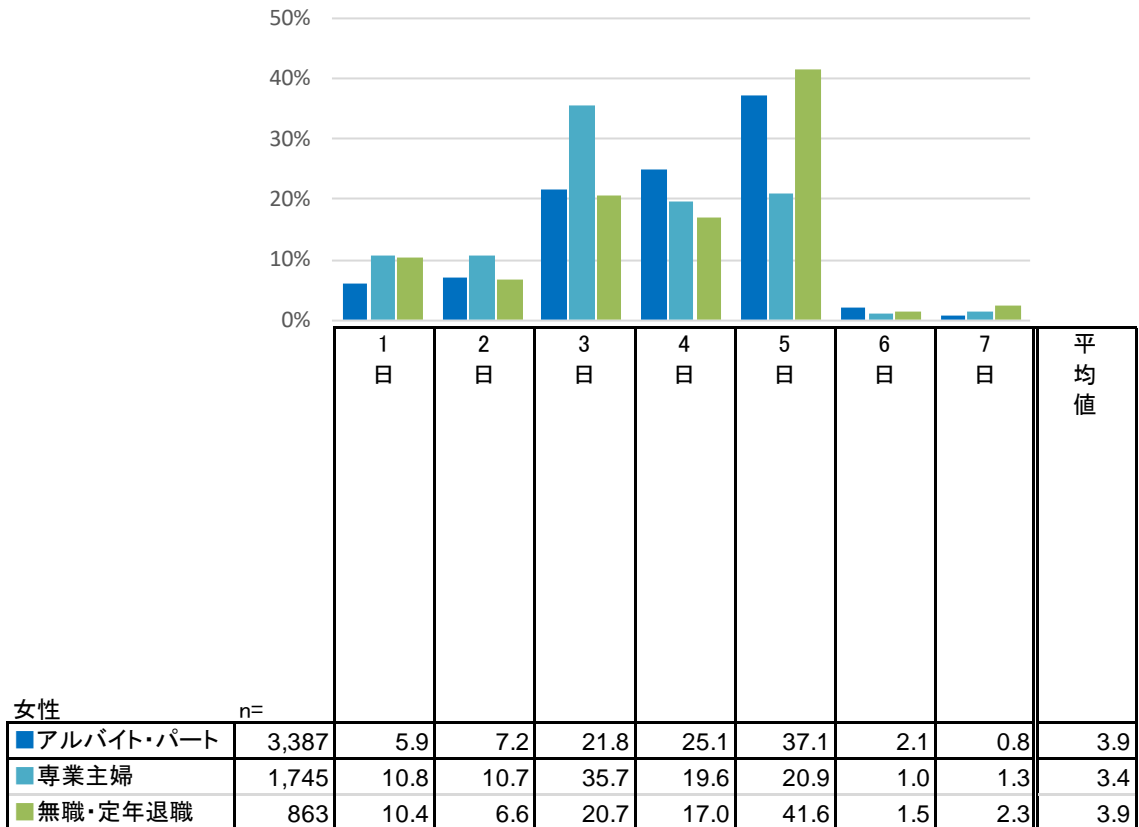
	n	事務	販売・サービス	理美容・医療	製造・生産・技能職	物流技術職	フード	レジャー・遊戯	営業	専門職	ドライバー	品質・生産・技術管理	コンピュータ関連職	技術・研究・開発職	理	メカニックス・警備・保守・修理	建築・土木工事関連職	管理職	その他	特に希望する職種はなかった
■アルバイト・パート	3,387	31.6	28.3	14.7	8.6	9.5	13.7	6.4	2.0	3.3	1.4	1.2	0.5	0.4	0.3	0.2	0.1	5.7	15.7	
■専業主婦	1,745	43.5	32.2	15.1	10.2	12.9	15.8	7.4	3.0	4.6	1.5	1.3	0.8	0.7	0.4	0.2	0.2	6.2	15.0	
■無職・定年退職	863	46.6	26.8	13.6	10.6	11.1	9.4	7.2	3.3	3.9	1.7	1.9	0.8	0.7	1.3	0.1	0.5	7.1	16.8	

Q.どのような職種の仕事を探していましたか。（複数回答）【対象者：全員】

2 仕事探しの実態

2-5 探した仕事の勤務日数（週あたり）

勤務日数については、専業主婦はアルバイト・パートよりも3日以下を希望する割合が高く、少ない日数を希望する傾向があるといえます。無職・定年退職では、正社員希望者が多いこともあり、5日勤務を希望する人の割合が高くなっています。求人を出す企業は、少ない日数での勤務を可能にしたり、勤務日の決め方を詳しく求人情報に載せたりすることで、人材が確保できるようになる可能性があります。



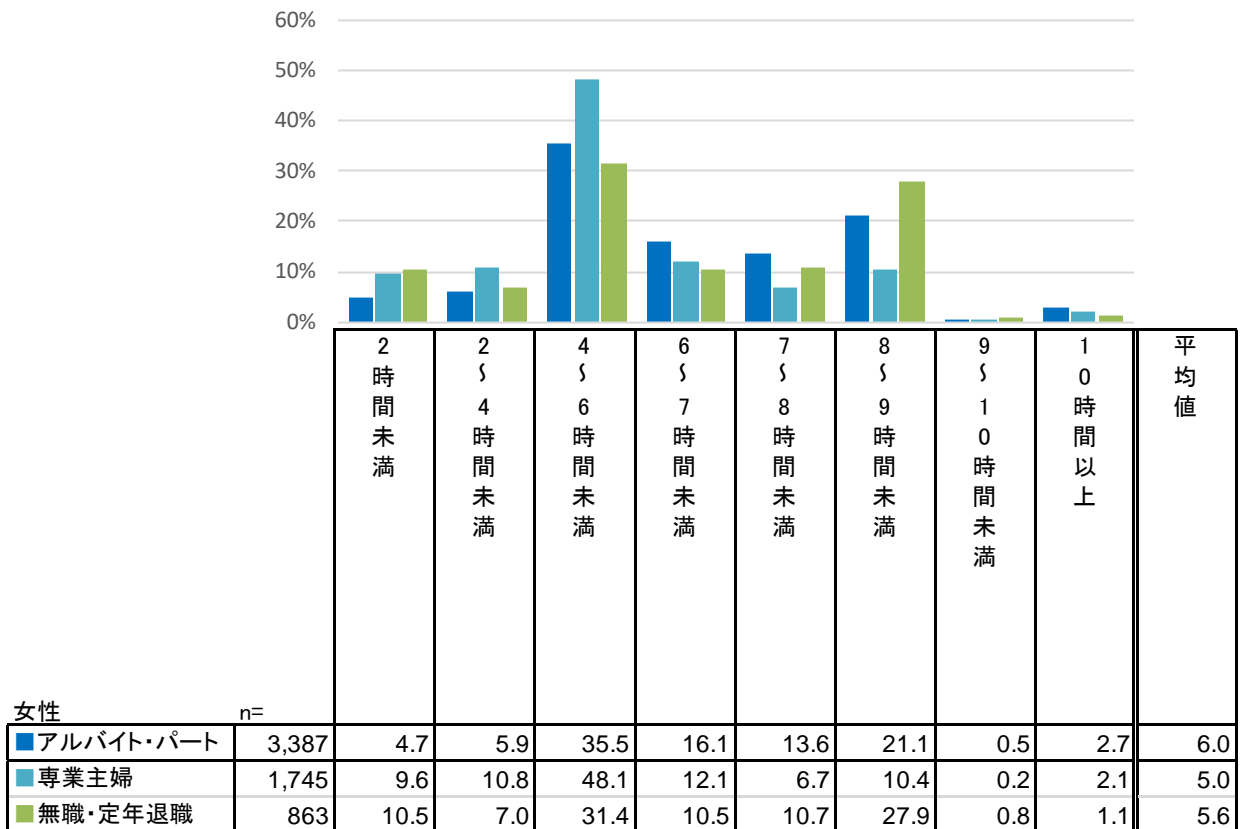
Q.1週間に何日くらい働く仕事を探していましたか。（単一回答）【対象者：全員】

2 仕事探しの実態

2-6 探した仕事の勤務時間（1日あたり）

勤務時間についても、専業主婦はアルバイト・パートよりも6時間未満を希望する割合が高く、少ない時間を希望する傾向があるといえるでしょう。無職・定年退職では、正社員希望者が多いこともあり、8～9時間未満の勤務を希望する人の割合が高くなっています。

前頁で見た勤務日数と同じように、求人を出す企業は、少ない時間での勤務を可能にしたり、勤務時間の決め方を詳しく求人情報に載せたりすることで、人材が確保できるようになる可能性があります。



Q.1日に何時間くらい働く仕事を探していましたか。（数値回答）【対象者：全員】